

表紙, 目次, 通信, 雑報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38116

大正四年四月一日發行

十全會雜誌

卷十二第
號四第
(號一十百第)

全澤醫齒學專門學校十全會

十全會雜誌(第二十卷第四號)目次

○原著及實驗

●新竹地方淡水產貝類ニ寄生スル種々ノ「チエ
ルカリヤ」ニ就テ。(第一回報告)

新竹醫院 中川 幸庵

●肺二口蟲中間宿主發見概報。

同人

●外傷ニ因ラズ失明後、四十五ケ年ヲ經過シテ
發生シタル交感性眼炎ノ一例及河本博士ノ新
療法新案ノ實驗ニ就テ。

秋田縣本莊町 鎌田 勘之助

○通信

●小林唯四郎氏通信。●中西興三次郎氏通信。

○雜報

●第拾五回講話大會。

委員 布瀬野史

○叙任及辭令

●內閣。●宮內省。●文部省。●金澤醫學專門學校。●陸軍省。●海
軍省。●石川縣。

○人事

●松原教授、那谷副手。●山本直枝氏。●竹村茂三氏。●新八郎氏。
●村松純吉氏。●藤岡孫喜氏。●北村誠吾氏。●訃音。●入會。●轉
居。

○會告

●校外特別會員會費納付調書。●創立二十五年紀念館寄附金第八回報
告。

○廣告

●村上教授在職紀念品贈呈贖金報告。



手術ヨリハ第一回ノ時ニ比シ組織ノ切除モ出血モ頗ル多
カリシニ關セズ再發マデノ期間ガ漸次短縮シテ第三回目
ノ再發期間ハ三週間位(但シ第二回ハ切除後「バクレン」
ニテ燒灼セリ)第四回目ノハ急ニ短縮シテ六日位トナリ
テ一見甚ダ奇異ノ觀ヲ呈スト雖凡必竟第二回目ヨリハ已
ニ黴菌ガ現住地ニ適應シタルノ後ナルカ或ハ然ラズトス
ルモ已ニ他眼ニ再發セシムル程繁殖セシ後ナルガ故ニ只
組織ノ一部分ヲ切除シタル位ニテハ黴菌及毒素ノ量ノ關
係ヨリ見レバ恰モ眼球内容除去法ヲ行ヒ而モ尙脈絡膜ノ
大部分ヲ取り遺シタルガ如キニ比シ得ベケン

最後ニ思ヒ切ツテ十分其巢窟ヲ取り去リタルガ爲メ僅カ
ニ殘リタル黴菌モ茲ニ漸次其勢力ヲ失ヒテ遂ニ死滅シ去
リタルモノナラント考フルハ強チ牽強附會ノ臆說ノミニ
非ザラン

該患者昨秋來院ノ節再ヒ檢スル機會ヲ得タリ眼底ニハ何
等ノ變化ナク視力○●九(小孔鏡一●○)ナルヲ慥カメ先年
退院後、間モナク普通ノ視力ヲ生ジ全治シテ最早再發ノ
憂ナキモノト思ヒ、聊カ參考ニ供シ併セテ諸家ノ高教ヲ
仰ガント欲シテ茲ニ報告スル所以ナリ (大正四年二月)

通信

●小林唯四郎氏通信

(明治四十一年卒業。臺灣新竹病院)

拜啓餘寒未だ去り難く御座候處歸地此頃は定めし銀世界寒氣も一層と存候
同じ臺灣と申しても南部地方は昨今日申八十三四度を算し扇子片手に活動
致し居るさ云ふ夏景氣にひきかへ當地の如き北部地方は目下雨期の眞最中
細雨濛々毛の如く變化せる皮膚の火の氣なくては凌ぎかゝる有様なれど水
銀柱は最低五十四五度を降らず雨の曇の輕暖にまづ梅唇の笑ひ初め池畔に
烟る眠柳も春風にまひ野山の早蕨空拳高くすみれ、蒲公英行く袖をさへぎ
り春色漸く萌へ出てんと致し居候

臺灣統治上の一大問題たる討蕃事業も佐久間總督が苦心の五年計畫により
て目出度終りをつけ醜の民草も茲に平定最終の派遣たる南部方面の討伐隊
も目下凱旋の途中にこれあり候いまだ寶庫の扉開かれざるにはやくも怒の
皮のつづばれる人間の代表者たる冒險家事業家の争ふて入山するもの雨後
の筈よりも茂しとかやされどいまだ嘗て「グアイヤモンド」の一片をだに掘り
得たるものあるを聞かず然るに今回此興味ある蕃山を背景として我醫學上
世界的價値を有する肺二口虫中間宿主の發見が母校出身者の手によりてな
され學界爲に色めき渡り幾多の専門學者が研究に調査に空しく腦漿をしほ
りたる三十年來の疑問もここに全く氷解し本病の豫防上に光明を與へ、研
究に向つて設備如何を喋々せる風聲をして後へに瞠若たらしめたるは實に
近來になき快事にして野生は新春の劈頭に於て此一大吉報を先生の机下に

致すの光榮を喜ぶものに御座候
由來當新竹地方は本病屈指の名所として學者間に喧傳せられ當廳下に於て
醫の門を叩く該病患者のみにても年に一千餘人へのぼり屢々路傍に見る幾
多の斑々たる血痰は殆んど其の慘を語るものにして一見實に慄然たるもの
有之候

大正二年秋中川幸庵氏當新竹醫院長に就職以來公務の餘暇を以て専心之れ
が研究に没頭し先づ肺二口蟲の發育状態を明にし更に進んで中間宿主の發
見に腐心せられ混亂せる迷路に屈せず屢々危険を冒して深く蕃山に出入し
足跡廳下の蕃界に洽く昨秋一蕃山の溪谷に於て遂に神秘の鍵を握りて以來
確實なる多數の動物試験に着々成功今同途に光輝ある論文を公表さるゝに
至るや各新聞は筆をそろへて其の功を稱賛し臺灣衛生界の耆宿たる高木博
士、斯界のオーソリティーたる九大教授宮入博士を初めとして専門學者より
の祝詞机上に推く講演の懇望一にして止まらず氏の名譽や大なりと云ふべ
く氏の快や察するに餘りあり
今回の發見たる獨り臺灣醫界の誇のみならず實に我母校の名譽と稱すべく
日光親しく氏の警咳に接する野生等後輩の私に快禁する能はざる處こゝに
秃筆を呵して御報知申上ぐる所以に御座候

新竹醫院

大正四年二月十三日

小林唯四郎

●中西與三次郎氏通信

(大正二年卒業。海軍々醫。吳海軍病院附。十全會宛)

拜啓春暖の候益々御清穆奉大賀候、陳者小生等海軍々醫學校へ入校以來通
信致度存居り候處何分今尙交戦状態にあるの故を以つて諸事多忙を極め不
計失禮仕候軍醫學校にては土曜、日曜の外泊と水曜午後五時より同九時ま

で上陸(外出のこ)する外校内に起臥致候、同窓は中軍醫五名少軍醫十六
名に有之候軍醫學校に於ける授業科目は前期は海軍衛生學、海軍衛生勤務
法、海軍防疫學、海軍衛生試驗法、軍陣外科學、艦船構造、端艇漕法、ホ
リクリニツク、グリニツク(英語等にて、後期の授業科目として醫化學、
病理學、地理病學、レントゲン科學等有之筈に候得共本年は卒業期を繰上
げ候爲め前期の科目のみ教授をうけ申候、軍醫學校の臨床的方面は東京市
立施療病院(學校の隣に在り)を以つて研究致居候受療患者數最多なるは花
柳病にして結核患者亦少なからず候、近時開業醫等が結核患者減少せりな
ごいふ者有之候得共是は貧民が結核を以つて不治の症と見做し診察料又は
藥價を惜しみ敢て醫門を叩かざるに由るこ施療病院に之等患者の多數
なるに徴し明に御座候。在京中渡邊政治郎君及近衛歩兵第三聯隊見習醫官
柴田一男君と二三回來往したるのみにて他の在京同窓諸君には終に拜眉の
機を逸し申候。

三月一日突然吳海軍病院附に補せられ六日着任致候(山下兄は佐世保海兵
團へ轉補 本院に於いて主として皮膚花柳病の助手として勤務致居候、最
近横痃の退院患者中(其數は公表を憚る)明に軟性下疳より發生せるもの四
〇%、混合下疳より發生せるもの一五%、初期硬結を有せるもの一〇%、
又両側のもの一五%、左側のもの六五%、右側のもの三〇%に有之候、尙
ほツェーアルクロイツ氏の統計報告に依る軟性下疳より發生せる横痃の約
六分の一は両側腫脹を來すべ斷案は本院の患者に徴するに稍々相違せる
やに思はれ候、目下本院に於いて別出術は殆んど行はず多くは所謂旭式及
西式手術にて處置致居候得共他に主症の存する爲めにや一二週にて治癒す
るは稀にて約一ヶ月を要するもの少からず候、梅毒患者は原則としてワ氏
反應十以上の者について驅梅毒療法を施行しをり候通例揚赤「パラフィン」の
筋肉内注射を施し居候得共時にまた「サルブレン」注射も試み申候、一般
に海外にて感染したるものは毒性強く、頑固なるが如く考られ候、尤も統

計的に研究したる次第には無之候得共先輩も亦之に同意致候
尙ほ本院にては時々工廠より来る外傷の珍しき例を見申候
終りに知己諸彦へ永らく御無沙汰致居候得共一々御手紙差上げかね候間何
卒御寛恕被下度願上候早々

三月十九日

吳海軍病院附

中西與三次郎

雜報

●第拾五回講話大會 (三月六日)

委員 布瀨野史

毎年五月と定められたる本部大會も學期變更の餘波を受けて約二ヶ月を繰
り上げ本日をして之を開くさはれ餘寒未ださめず正に幽谷を出でし鶯の第
一聲を聞くの感あり、さても此の日不思議なる二異例あり一は例に見ざる
講堂の滿飾と演題を向ふの壁に接してかけつられたる「こゝは朝一時間
授業せる」之なり蓋し前者は四年級が紀念寫眞帳の一頁を飾らんとすの
努力にして後者は會員吸収の窮策と見たは辟目か。

一、開會之辭

部長 土肥博士

二、所感

醫二 藤野幸太郎君

初は處女の如く終りは脱兎の如しとは正に君の演説ならむ辯論は正にかく

ありたし先づ餘は養蠶の經驗を有すま冒頭し「蠶は脱皮に脱皮をかされ四
度の脱皮の後遂に繭を作る人も之と同じく幾多進路の變遷を重ねて最後に
大なる「アルバイト」をなせ」と好箇の教訓?

三、結婚と壽命

醫四 布瀨七一郎君

四、學者の聲

醫二 坂東三範君

美少年何をか云はんやと見くびりしに顔に似合はぬ大聲はり上げ「學者は
常に理窟を以て世事を律せむとす之れ彼等が常識に於て經驗者に及ばざる
所以なり」と嘖鳴る速記子驚き口あんぐり。

五、北陸大學

來賓 中橋徳五郎君

氏は逐鹿場裡多忙なるにもかゝらず一席の講話を諾せられたるは校友の
深く感謝する所見上ぐる半白の鬚髯温良の眼光敬慕に堪へず徐に口を開い
て「吾國の各學校を見るに國の富に比して學校設備や、贅澤に過ぎたるや
の感あり吾が大阪高等醫學校の如きも未だに單科大學の認可を與へられざ
るは蓋し此の設備形式に云々する學者あるためならむ余は信ず學校經費の
多少は人物の養成に多大なる關係を有するものに非ずと故に今少しく學校
經濟の安價を期せば醫學校の費用を以てして大學程度の教授をなしうるこ
と疑を容れず此の意味に於て北陸大學の建設は困難なる等に非ずと。

六、不圖感激して

醫一 楠教惠君

無遠慮なる大聲先づ聽衆を驚かしまくしかけての大風呂敷は大隈伯の論法
「人生意義感。功名亦誰論。」入一度感激せば功名營利を顧みたる暇なし
機性的精神の發露此所に存す」と。

七、夢の藝術

醫三 石原巖君

夢を分ちて中樞性と末梢性の二とす中樞性の夢は象徴暗示に類するものに
て中樞に迷入せる無數の觀念分子の奔放的連續によりて生ず、末梢性の夢
は身体の姿勢周圍の狀況によりて變化し故に頗る錯誤を生じ易しと、續々、
數千言説明精細を極む君や正に三年級辯論界の雄惜しむらくはや、抑揚に

乏し。

八、戦争と國家

醫四 森本拾三君

濼測たる元氣充實せる音量、聽衆醉ふるが如し「優勝劣敗弱肉強食之れ生物の原則なり人よ迷ふ勿れ人亡びて人道ありや地球亡びて山河ありや」と次第に熱し來り「國家存する以上は戦争なからず亦避くべからず戦争なくして國家の發展望むべからず」と鐵拳を振りまはして餘勢卓上の土瓶に及ばんとす快男子、校のために健在なれ。

九、個性を發揮せよ

醫二 瀧上伊織君

現代は摸倣の塊なり摸倣は遂に摸倣なりかくして尊き「自己」は摸倣のために煙滅せらるべし吾人は須らく摸倣をすて、個性を發揮せざるべからず然らざれば。吾は終生「吾」を現はさずして他人の「吾」として消失せん而已と滔々懸河の辯速記子ひたすら感心仕る。

一〇、醫師と藥劑師の現状

藥三 英安吉君

醫藥分業の大鐵槌を校友四百の頭上に打ち下ろし當るを幸ひ切りまくる君の手腕凡ならず曰く「醫學の進歩に伴ひ醫師の智識は次第に向上すれども徳の之に伴はざるは痛嘆に堪へず醫藥分業の實施は正に此の不徳を矯正する特功藥なりと孤軍奮闘眼中醫師なし痛快々々。

一一、誤られたる自由

醫一 伊藤喜平君

「我儘と自由とは似而非なるもの自由を得ながら尙不足を唱ふるものは自由と我儘を混同せるものなり」と憤慨にかす吾君と感を全じうす。

一二、科學上より見たる婦人の貞操

醫四 鈴木外男君

今度は朝鮮談をそちのけに艶つばい貞操論を掲げて相も變らぬ髻(?)を撫でながらの大氣焔「一度男子に接せる婦人は彼が肉体中に男性々質の傳染(傳染説)或は浸潤(浸潤説)を受け再び純潔なる處女に歸るこ絶對に不可能なり故に婦人の貞操は彼の責任なり亦權利なり」と主張す空論ならずん

ば至幸。

一三、輿論の權威

醫三 山中進一郎君

演説は早きを以て尊きとせせず語勢語尾の明瞭なるを以て勝れりとす君の辯論頗る明快正に此の注文に當てはまる「政事は輿論を以て生命とす學校と輿論亦放るべからざる關係を有す徒に學生輿論を壓迫して之を無視せんとするは學校整理の特策に非ずよろしく輿論は尊重すべし」と大喝降壇。

一四、本校武道部のために 附 自己のために

藥三 望月鐘一君

前辯士の所説を更に應援して曰く「學生にも政事的能力を必要とす政事的能力なき學生は其の無能なること恰かも水を放れし河童の如し」と痛罵し武道部に論及して「本校武道部の振はざるは餘の責任なり」と唱破す此の覺悟ありてこそ始めて武道部の發展期すべけれ。

一五、吾人の社會的地位

醫四 喜多村虎次君

「吾人が校門を辭し社會に活歩せんとするに當り益々自信自重を鞏固にし以て容易く他に屈するの愚をさげざるべからず吾人と彼の所謂大學出なるものとの差異は單に語學に於てや、劣れるのみ何を苦んでか何村の何兵衛たらん、このみを求めんや須く社會に雄飛せよ」と君の言や壯願くは言行一致を忘る勿れ自己のためにはた校のために!。

一六、大人論

來賓 八波四高教授

先生は頗る謹嚴なる態度と明晰なる口調を以て「大人とは何ぞや大人を知らむと欲せば其の三大特質を研究せざるべからず三大特質とは

◎一、包容性 清濁合せ呑む大度量之れ大人の最大なる特質の一なり「大山は細塵をいらばす大海は細流を捨てず」「大勇は怯大儒は愚なるが

如し」大楠公は泣男すら陣中にまれき星氏は閑をぬすみて書齋口入り、大隈伯は多く人に聞き以て思想の枯渴を防ぐと皆之れ大人の相也「最大なる天才は他人に負ふ所最も大なり」(エマソン)と至言と云ふべし。

◎二、持久性 昔より戦の勝利は最後の五分間にありと云ふ人の根柢には限りあり所謂最後五分間の忍耐者こそ最後の勝利者なれ、功は急ぐべからず大器は晩成

◎三、決断が 第一第二の特性は時に優柔者流の口實なることあり第三の特質決断力によりて明らかに鑑別することを得べし包容性は智を得持久性は功を急かず満を持して放たんとする時をまづ決断の至る時は快刀亂麻を絶つ之れ大人の最も必要な特質なり。

先帝御製に「うづはには従ひながら嚴をも通すは水の力なりけり」と在り、又「はれかへす力のありて雲の竹」皆大人性を現はす要するに大人性は一部は天賦によるべきも而し或る点までは修養によりて得らるべし故に修養は人を大にす。

一七、學生の意氣

下平 教授

「學生には意氣なかるべからず本校學生の一部には或は元氣存せんも全般に行き渡らざるが如し武道部の奮はざるは何を意味するか學生時代に謠曲を唸る時間あらばよろしく語學の研究に費すべし又角力部の新設も興味多からん」と先生の御話中四年級の希望により撮影す。

一八、人種改良論

松原 教授

先生は十數枚の統計表を掲げて疾病と文明の關係を論じ「文明により体質及精神の情落甚だしく梅毒、「アルコール」の害毒は文明と共に激甚なる増加を示す、人種改良上大切な關係を有するは血族結婚なり神經病者には血族結婚者の子孫多く聾啞の 80% は實に血族結婚者の子孫なり而し余の所謂改良論は低能兒を良くせんとするには非ずむしろかゝる輩の生産力を減じ優良なる者をして益々之を發展せしむこの目的には出來得る限り同職業の人々を結婚せしめ各其の個性を無限に向上せしむるを良策とす。

一九、學問獨立の眞意義

桂田 博士

余は本校の前身たる甲種醫學校に學びたる一人にて校名更りたりと雖も諸

君と同窓なりとも云ひ得べし昨年大戰亂突發してより日本學問獨立を絶叫する者多し而し其の獨立の意義に至りては余の有する意見と大差あるを遺憾とす學術には國境なし彼の長をとり我が短を補ひ以て、世界獨歩の學風を立つるに於て始めて學問の獨立なれりと云ふべし學風は今日何れの國にも存し又存すべき理也填獨は主に智育の發達を期し英米は品性の涵養を以て主眼とす余は何れにも賛せず兩者合せ得たるものを以て理想とせむのみ獨乙が今日まで吾留學生を誘導補育せるは只自己のためのみ何ぞ他國學生のためになすの舉ならむや故にやがて戰亂終局の後には我が留學生に對すること亦奮の如くなるべしと。

二〇、閉會の辭

郷長 土肥 博士

冬の日足の短かく太陽正に西山に没せむとす土肥部長立ちて閉會を宣せらる時に午後五時かくして目出度大會を終るげにや光陰は矢の如し顧みて豈に多少の感なからむや秋去り冬去り春來る年々歳々花相似たり花は萎むも一歳にて亦開かん、されど人は次第に老いて昔日の儂なし諸君！青春は再び來らず武に於て奮はずは何ぞ文に於て雄ならざる何ぞ言論に於て壯たらざる？講話部の奮はざりしは與誰にありや云爾。

叙任及辭令

●内閣

二月一日

任金澤醫學專門學校教授

叙高等官六等 七級俸下賜

田村 昌

二月二十二日

金澤醫學專門學校教授正五位勳五等 佐々木 達

陞叙高等官二等

二月二十二日

依願免本官

金澤醫學專門學校教授 佐々木 達

●宮内省

二月二十日

叙從六位

正七位醫學博士 土肥 章 司

叙正七位

從七位 林 篤

●文部省

二月二十二日

賜一級俸

金澤醫學專門學校教授 佐々木 達

●金澤醫學專門學校

二月十日

金澤醫學專門學校內科學副手囑託 梶川 靜 夫

依願囑託ヲ解ク

二月十七日

金澤醫學專門學校醫學士 近藤 清 吾

內科學副手ヲ囑託ス

月手當金貳圓給與

●陸軍省

任陸軍二等軍醫

陸軍三等軍醫正八位勳六等 加納 景 成 (三五)

步兵第二十聯隊附陸軍一等軍醫 永井 準 造 (三九)

免本職補步兵第十聯隊附(姫路)

步兵第十聯隊附陸軍一等軍醫 内海 友 七 (三九)
免本職補步兵第二十聯隊附(福知山)

●海軍省

補佐世保海軍工廠附

海軍大軍醫 荻野 茂 次 郎 (四一)

三月一日

補吳海軍病院附

中西 與 三 次 郎 (大三)

●石川縣

二月一日

水 嶋 時 男 (大三)

沼 田 準 三 (大三)

金澤病院醫員ヲ命ス 十二級俸給與

二月二日

眼科部勤務ヲ命ス

醫員 沼 田 準 三 (大三)

外科第一部勤務ヲ命ス

醫員 水 嶋 時 男 (大三)

二月二十七日

願ニ依リ囑託ヲ解ク

金澤病院內科二部長 佐々木 達

金澤醫學專門學校教授 田 村 昌

金澤病院內科第二部長ヲ囑託ス

年手當七百圓給與

願ニ依リ職務ヲ免ス 金澤病院醫員 杉 本 兵 太 (大二)

願ニ依リ職務ヲ免ス

金澤病院醫員 藤 岡 孫 喜 (大元)

三月六日

願ニ依リ職務ヲ免ス

金澤病院醫員 藤 岡 孫 喜 (大元)

三月十六日

願ニ依リ職務ヲ免ス

金澤病院醫員 松 澤 堅 二 (四三)

人事

- 松原教授、那谷副手 共に三月二十日福岡大學に開催せられたる神經學會に參列せられたり。
- 山本直枝氏(明四二) 京大藥物學教室に研究中の氏は京都吉田町下阿達九 天木方に寓居せらる。
- 竹村茂三氏(明四三) 今般恩賜財團濟生會神奈川病院に勤務せらる。
- 新 八郎氏(明四四) は今般埼玉縣大里郡深谷町大字西島七四三にて産婦人科専門にて開業せらる。
- 村松純吉氏(明四四) 卒業後金澤市内岡本小兒科醫院にて醫員勤務せられしが今回同院を辭し七尾生駒町にて開業せらる。
- 藤岡孫喜氏(大元) 卒業後醫學教室に研究し其後内科二部に醫員たりし同氏は今回高岡市河合病院醫員に轉勤せらる。
- 北村誠吾氏(大三) 卒業後耳鼻咽喉科に研究中なりし同氏は今回兵庫縣城崎郡香保村奥田醫院の招聘に應じ開業せらる。

訃音

- 田邊俊之氏(明四〇) 高岡市利屋町に開業の氏は去る二月病没せられたり、謹て哀悼の意を表す。
- 田中基保氏(明四〇) 小松町に開業の氏は去る三月二日病没せられたり、謹て哀悼す。
- 吉井直次氏(明四二) は去る一月二十三日午前七時鹿兒嶋縣奈良郡清

水村山之路八九の自宅に於て病死せられたり、謹て哀悼の意を表す。

入會

- 名古屋市歩兵第六聯隊第十二中隊 大田 喜作氏(大三)
- 神戸市楠町二丁目三六 大村作太郎氏(大三)
- 東京麴町區胃腸病院內 深澤 忠義氏(大三)
- 富山縣婦負郡古里村長澤 石川 清次氏(大三)

轉居

- 横濱市中村町一四九六 竹村茂三氏(明四三)
- 新潟縣東頭城郡安塚村大字虫川 佐 藤 進氏(明四四)
- 石川縣鹿嶋郡七尾町生駒町四九 村松 純吉氏(明四四)
- 石川縣石川郡富奥村字栗田新保 林 喜久男氏(大三)

會告

●自大正四年二月廿五日校外特別會員會費納付調書至同 三月廿二日

金額	期	限	氏名
一金參圓也	自大正三年度	三ヶ年分	太田 喜作殿
一金貳圓也	自大正三年度	二ヶ年分	梅岡 幸三殿

一金參圓也	自大正三年度	三ヶ年分	大村作太 郎殿
一金參圓也	至大正五年度	三ヶ年分	久保井末 造殿
全			深澤忠 義殿
一金壹圓也	大正三年度分		石川清 次殿
全			八島 修殿
一金參圓也	自大正三年度	三ヶ年分	
至大正五年度	三ヶ年分		

●創立二十五年記念館寄附金第八回報告

二月二十三日迄ノ分○印ノモノハ現金領收濟ノ分

金額	氏名	金額	氏名
一金參圓也	矢原準一殿	一金參圓也	豐田 銳殿
一金參圓也	○太田喜作殿	一金五圓也	伊藤精一殿
一金五圓也	須田嘉三郎殿	一金拾圓也	○池田 昭殿
一金五圓也	栢原直次郎殿	一金參圓也	久保井末 造殿
一金五圓也	月原秀 範殿	一金參圓也	若林篤之殿
一金拾圓也	濱地藤太郎殿	一金五圓也	○日野信 次殿
一金五圓也	神坂勇治殿	一金拾圓也	○石坂直次郎殿
一金五圓也	○田中健次殿	一金參圓也	○高澤冠一殿
一金參圓也	○大橋 豐殿	一金五圓也	○喜多養元殿
一金參圓也	○遠山正輝殿	一金參圓也	○坪田義門殿
一金參圓也	○齊藤友一殿	一金參圓也	○美原文二殿
一金參圓也	○鮎谷京次郎殿		

累計金貳千八百〇四圓五拾錢也

計金壹百〇六圓也

一金參拾圓也	石坂伸吉殿	一金貳圓也	安藤信次殿
一金五拾圓也	佐々木 達殿		
以上			

▲第七回申込報告後現金領收ノ分

廣告

●村上教授在職記念品贈呈釀金報告

三月廿日迄ニ村上教授記念品贈呈釀金申込額 并ニ釀金受領ノ分×印ハ釀金受領濟ノ分

金額	氏名	金額	氏名
一金五圓也	×松原三郎殿	一金壹圓也	×石川精一殿
一金貳圓也	×那谷與一殿	一金壹圓也	×喜多禎次殿
一金貳圓也	×佐崎伊久殿	一金壹圓也	×太田尙男殿
一金壹圓也	×越村基太郎殿	一金壹圓也	×石川寛二殿
一金貳圓也	小幡一志殿	一金壹圓也	×松下嘉右衛門殿
一金貳圓也	武田久米藏殿	一金壹圓也	×楠木信親殿
一金壹圓也	×本田三郎殿	一金壹圓也	×原伊之殿
一金貳圓也	×七五三龜吉殿	一金壹圓也	早瀬三求殿
一金壹圓也	×八田智証殿	一金壹圓也	富田敦貴殿
一金壹圓也	吉江采太郎殿	一金壹圓也	森川 修殿
一金壹圓也	城石健治殿	一金貳圓也	樋口平次殿

一金壹圓也	大村作太郎殿	一金壹圓也	小野澤庄桂殿	一金壹圓也	波邊仙岳殿	一金參圓也	×吉池省吾殿
一金貳圓也	河村多郎殿	一金貳圓也	吉住儀殿	一金壹圓也	住吉三郎殿	一金壹圓也	中谷豐充殿
一金壹圓也	×加藤錠吉殿	一金壹圓也	×松崎清博殿	一金貳圓也	×橋本監次郎殿	一金壹圓也	吉田錦榮殿
一金壹圓也	村本淳吉殿	一金壹圓也	×真柄佐一郎殿	一金壹圓也	諸橋善三郎殿	一金壹圓也	×北原直義殿
一金五圓也	深町正道殿	一金貳圓也	×野村亮吉殿	一金壹圓也	×長廻善吉殿	一金壹圓也	楠田利一殿
一金貳圓也	赤倉喜久雄殿	一金貳圓也	金子太須計殿	一金壹圓也	內藤賴一殿	一金壹圓也	上出正男殿
一金貳圓也	本正生殿	一金壹圓也	×笹岡芳名殿	一金壹圓也	松井清輝殿	一金壹圓也	松本易二殿
一金壹圓也	×石譯太作殿	一金壹圓也	×朝倉重敏殿	一金壹圓也	堀順郎殿	一金壹圓也	皆川眞盛殿
一金壹圓也	×高澤冠一殿	一金壹圓也	田中精一殿	一金壹圓也	伊藤又吉殿	一金壹圓也	富田豐咲殿
一金壹圓也	×丸山六郎殿	一金壹圓也	今井篤殿	一金壹圓也	松本乙男殿	一金壹圓也	織田他家男殿
一金壹圓也	福田四郎殿	一金壹圓也	柏原貞次郎殿	一金壹圓也	小原隼三殿	一金壹圓也	松澤堅二殿
一金壹圓也	×伊藤二郎殿	一金壹圓也	小木秀時殿	一金壹圓也	加勢基殿	一金壹圓也	栗山光太郎殿
一金參圓也	×鴨脚光榮殿	一金壹圓也	桑島柳吉殿	一金壹圓也	沼田準三殿	×金壹圓五拾錢也	×田中一次郎殿
一金貳圓也	吉村一馬殿	一金壹圓也	×村山真平殿	一金壹圓也	×近藤時男殿	一金壹圓也	×野坂腎藏殿
一金壹圓也	筑紫季雄殿	一金貳圓也	林義輔殿	一金壹圓也	×水島時男殿	一金壹圓也	×今村鐵夫殿
一金壹圓也	×楠野米太郎殿	一金壹圓也	×石川元真殿	一金參圓也	林篤殿	一金壹圓也	×奥山義盛殿
一金壹圓也	×柴原外男殿	一金壹圓也	×田山退一殿	一金壹圓也	×竹內善松殿	一金壹圓也	梶川靜夫殿
一金壹圓五拾錢也	×三木三郎殿	一金壹圓也	×田代保二殿	一金壹圓也	近藤清吾殿	一金壹圓也	藤岡孫喜殿
一金壹圓也	清水秀夫殿	一金壹圓也	窪美一久殿	一金壹圓也	上野辰太郎殿	一金壹圓也	山崎重治殿
一金壹圓也	×田中信一殿	一金貳圓也	×日野信次殿	一金壹圓也	小池才一殿	一金壹圓也	淺井貞準殿
一金壹圓也	川崎盛道殿	一金壹圓也	×高田茂一殿	一金壹圓也	×馬詰定衛殿	一金壹圓也	×後藤義賢殿
一金壹圓也	×水口順殿	一金壹圓也	×戸谷慈一殿	一金壹圓也	×美原文二殿	一金貳圓也	重本儀介殿
一金壹圓也	×川村二郎殿	一金壹圓也	×山川宮三殿	一金貳圓也	×稻坂清八殿	一金貳圓也	×鎌田勘之助殿
一金壹圓也	×山脇泰治殿	一金貳圓也	松王數男殿	一金貳圓也	×重田稔殿	一金貳圓也	×東義雄殿
一金壹圓也	酒井政吉殿	一金壹圓也	長田八三郎殿	一金壹圓五拾錢也	×內藤三太郎殿	一金壹圓也	×上野忠殿
一金貳圓也	辻本辰之助殿	一金貳圓也	宮崎繁殿	一金壹圓也	中村欣二郎殿	一金壹圓也	×原田四郎殿

一金壹圓也	×細田 榮殿	一金壹圓也	眞澤貞一殿	一金參圓也	×田中健 治殿	一金貳圓也	梶川藏 重殿
一金壹圓也	小林茂 樹殿	一金壹圓也	×窪美 良殿	一金參圓也	辻岡 律殿	一金貳圓也	×伊坂 春殿
一金壹圓也	江守 武殿	一金壹圓也	豐田今吉郎殿	一金五圓也	影山清 美殿	一金五圓也	×太田精 一殿
一金壹圓也	江村研 正殿	一金壹圓也	小黒仁太郎殿	一金壹圓也	×松浦啓 三殿	一金壹圓也	馬場 穠殿
一金壹圓也	松村喜 一殿	一金壹圓也	×高崎文 雄殿	一金壹圓也	×大澤五 月殿	一金壹圓也	×河合忠 次殿
一金壹圓也	山口 登殿	一金壹圓也	木下克 雄殿	一金壹圓也	芦澤孝 治殿	一金壹圓也	×中川良 忠殿
一金壹圓也	尾倉一 英殿	一金壹圓也	井上只 次殿	一金壹圓也	×神岡藤 一郎殿	一金壹圓也	×長井運 男殿
一金壹圓也	×山田有 登殿	一金壹圓也	×松田菊 雄殿	一金壹圓也	×延川 靖殿	一金貳圓也	×伊藤精 一殿
一金壹圓也	茂居政 治殿	一金壹圓也	大橋 豐殿	一金壹圓也	×田上清 貞殿	一金貳圓也	×坪田義 門殿
一金壹圓也	村尾純 昌殿	一金貳圓也	中村 惠殿	一金壹圓也	×大原米 次殿	一金壹圓也	×太田卯 三郎殿
一金壹圓也	×馬場庄 江殿	一金壹圓也	×鈴木於 克吉殿	一金壹圓也	×笠島宗 之殿	一金壹圓也	×杉山貞 二殿
一金壹圓也	平野郷 治郎殿	一金壹圓也	吉井康 次郎殿	一金五圓也	×森田齊 次殿	一金壹圓也	×柴田一 男殿
一金貳圓也	×島 誠 郁殿	一金壹圓也	高口保 太郎殿	一金壹圓也	×和田政 範殿	一金壹圓也	×宮城篤 珍殿
一金壹圓也	小島顯 治殿	一金壹圓也	石橋四 郎殿	一金壹圓也	×安田末 吉殿	一金壹圓也	×大脇彌 平殿
一金參圓也	兒島亮 吉殿	一金壹圓也	竹園圓 隆殿	一金壹圓也	×高倉外 次郎殿	一金壹圓也	×森部令 次殿
一金壹圓也	×山田幸 吉殿	一金壹圓也	熊澤清 隆殿	一金壹圓也	×武田良 海殿	一金壹圓也	×雨森良 順殿
一金壹圓也	×國田武 雄殿	一金貳圓也	×久津勝 作殿	一金壹圓也	×鹽村和 喜男殿	一金壹圓也	×村松貞 治殿
一金貳圓也	×松田研 吉殿	一金壹圓也	×加納景 成殿	一金五圓也	×久保 武殿	一金壹圓也	×奥田秀 的殿
一金壹圓也	×大井良 八郎殿	一金壹圓也	×賀川見 龍殿	一金貳圓也	×島田靜 男殿	一金壹圓也	×木谷義 太郎殿
一金壹圓也	×太田喜 作殿	一金貳圓也	田中正 一殿	一金壹圓五拾錢也	×鶴來政 雄殿	一金壹圓也	×鈴木 忍殿
一金參圓也	×山田金 一郎殿	一金參圓也	×中野玄 次殿	一金貳圓也	×深瀬鴻 堂殿	一金壹圓也	×鈴木伊 作殿
一金壹圓也	×望月慶 作殿	一金貳圓也	×岡 忍殿	一金貳圓也	×中元長 三郎殿	一金壹圓也	×中川善 松殿
一金壹圓也	松村 魁殿	一金貳圓也	×中島 誠殿	一金壹圓也	×河崎有 作殿	一金壹圓也	×吉川友 信殿
一金貳圓也	×竹多乙 三郎殿	一金壹圓也	×眞縮修 平殿	一金貳圓也	×牛塚榮 太郎殿	一金壹圓也	×加藤敏 作殿
一金壹圓也	×小島佐 藏殿	一金壹圓也	×奥山正 雄殿	一金壹圓也	×北村一 清殿	一金壹圓也	×竹松 衛殿
一金壹圓也	×矢 吹 清殿	一金壹圓也	×赤尾肇 三殿	一金壹圓也	×三上儉 治殿	一金壹圓也	×三桶米 造殿

一金壹圓也	×猪木彦助殿	一金壹圓也	諸橋嘉久治殿
一金壹圓也	×吉尾開道殿	一金壹圓也	×高桑勇次郎殿
一金壹圓也	×飯塚忠男殿	一金壹圓也	×丹羽直殿
一金壹圓也	×駒田作之進殿	一金壹圓也	×久保井米造殿
一金壹圓也	宮井勇殿	一金壹圓也	栗林信殿
一金壹圓五拾錢也	中谷内善雄殿	一金壹圓也	×太田外茂次殿
一金壹圓也	×塚本秀十郎殿	一金壹圓也	×稻村大助殿
一金壹圓也	×前川孝之殿	一金壹圓也	×齊藤義雄殿
一金壹圓也	×清水憲策殿	一金貳圓也	×韓清泉殿
一金壹圓也	×錢崇潤殿	一金壹圓也	×淺井泰殿
一金壹圓也	×小野醇吉殿	一金壹圓也	×大武國治殿
一金壹圓也	松田茂殿	一金壹圓也	×高橋隆三殿
一金壹圓也	×林正雄殿	一金貳圓也	×北川勝末殿
一金參圓也	×加藤寬殿	一金壹圓也	×原田正廣殿
一金壹圓也	×若林篤之殿	一金壹圓也	×萩野茂次郎殿
一金壹圓也	×大野幸重殿	一金壹圓也	×八島修殿
一金五圓也	×河西林藏殿	一金壹圓也	×古屋與三殿
一金壹圓五拾錢也	×中川久成殿	一金貳圓也	×新谷信吉殿
一金壹圓也	×吉川孝作殿	一金壹圓也	×高松岩吉殿
一金貳圓也	×大橋忠俊殿	一金壹圓也	森義作殿
一金貳圓也	×濱地藤太郎殿	一金參圓也	×石坂直次郎殿
一金壹圓也	柴野順吾殿	一金壹圓也	×石黒四郎殿
一金壹圓也	鈴木鉦十郎殿	一金壹圓也	池田莚吉殿
一金壹圓也	佐口榮殿	一金壹圓也	×川原武夫殿
一金壹圓也	×森田耕一殿	一金壹圓也	×池浦渡殿
一金壹圓也	×説田順一殿	一金壹圓也	×長谷川葛殿

一金貳圓也	國分金城殿	一金貳圓也	在奉天高崎文雄殿
一金壹圓也	×後藤利造殿	一金貳圓也	×高伊三郎殿
一金壹圓也	×中島喜作殿	一金貳圓也	白井濟殿
一金壹圓也	×石田他人殿	一金壹圓也	×中西與三次郎殿
一金壹圓也	×太田大計作殿	一金壹圓也	柳原茂樹殿
一金壹圓也	松尾陸一殿	一金壹圓也	×大島重雄殿
一金壹圓也	×北川光雄殿	一金壹圓也	×住吉常三殿
一金壹圓也	×中西島吉殿	一金壹圓也	×松田龜太郎殿
一金壹圓也	×酒井利勝殿	一金壹圓也	中田秀貞殿
一金壹圓也	×渡邊直治殿	一金壹圓也	北川健三殿
一金壹圓也	榊原久殿	一金壹圓也	×山際房次郎殿
一金壹圓五拾錢也	×深美貞之助殿	一金壹圓也	×神坂勇治殿
一金五圓也	丹羽玄純殿	一金五圓也	丸山直友殿
一金參圓也	×並河正雄殿	一金參圓也	×波字貞殿
一金參圓也	野嶽利七殿	一金壹圓也	×沖為次郎殿
一金壹圓也	×小池勇助殿	一金壹圓也	×宇佐美保久殿
一金壹圓也	須田嘉一郎殿	一金壹圓也	×芥川信殿
一金壹圓也	寺本義一殿	一金壹圓也	三浦信明殿
一金壹圓也	關柄平殿	一金壹圓也	藤戶謙治殿
一金壹圓也	×山本直枝殿		

申込總額金四百參拾八圓五拾錢也
現金受領金額金貳百參拾八圓也

正誤、前回廣告發起人中柴野順吾氏ヲ加フ

● 廣 告

村上教授在職紀念品贈呈釀金
御申込濟にして未だ御送附之
無き方は此際至急御出金被下
度願上候

發起人一同